

谷地川整備事業 (八王子市宮下町～同市戸吹町)

令和元年10月7日(月)

建設局河川部

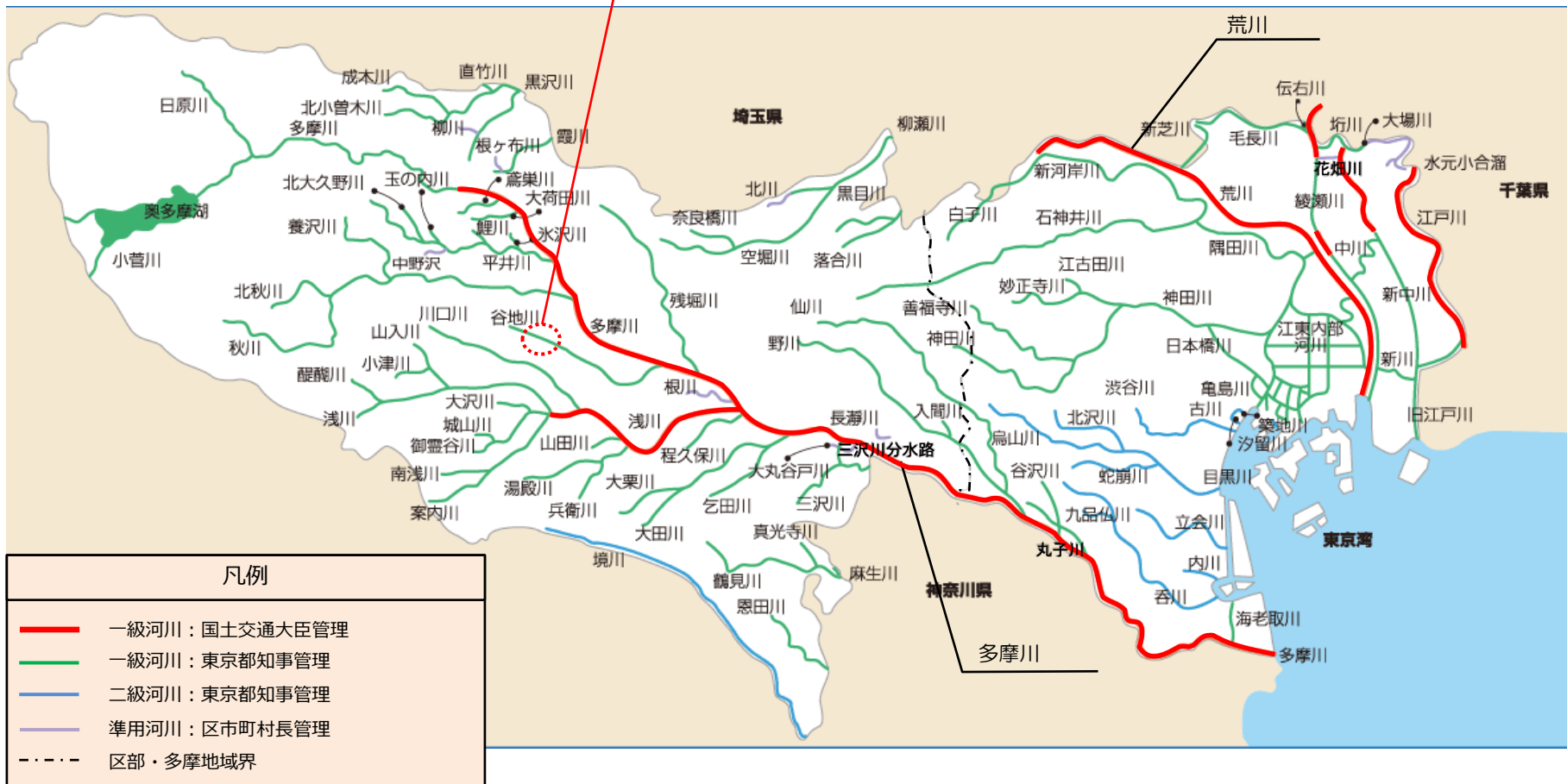
目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	7
3. 事業の投資効果	11
4. 事業の進捗状況	14
5. 事業の進捗の見込み	17
6. コスト縮減等	18
7. 対応方針案	19

1. 事業概要

位置図

【事業評価区間】
谷地川 八王子市宮下町地内～同市戸吹町地内



1. 事業概要

流域図



かいど
開戸橋下流側



たきやま
滝山橋上流側

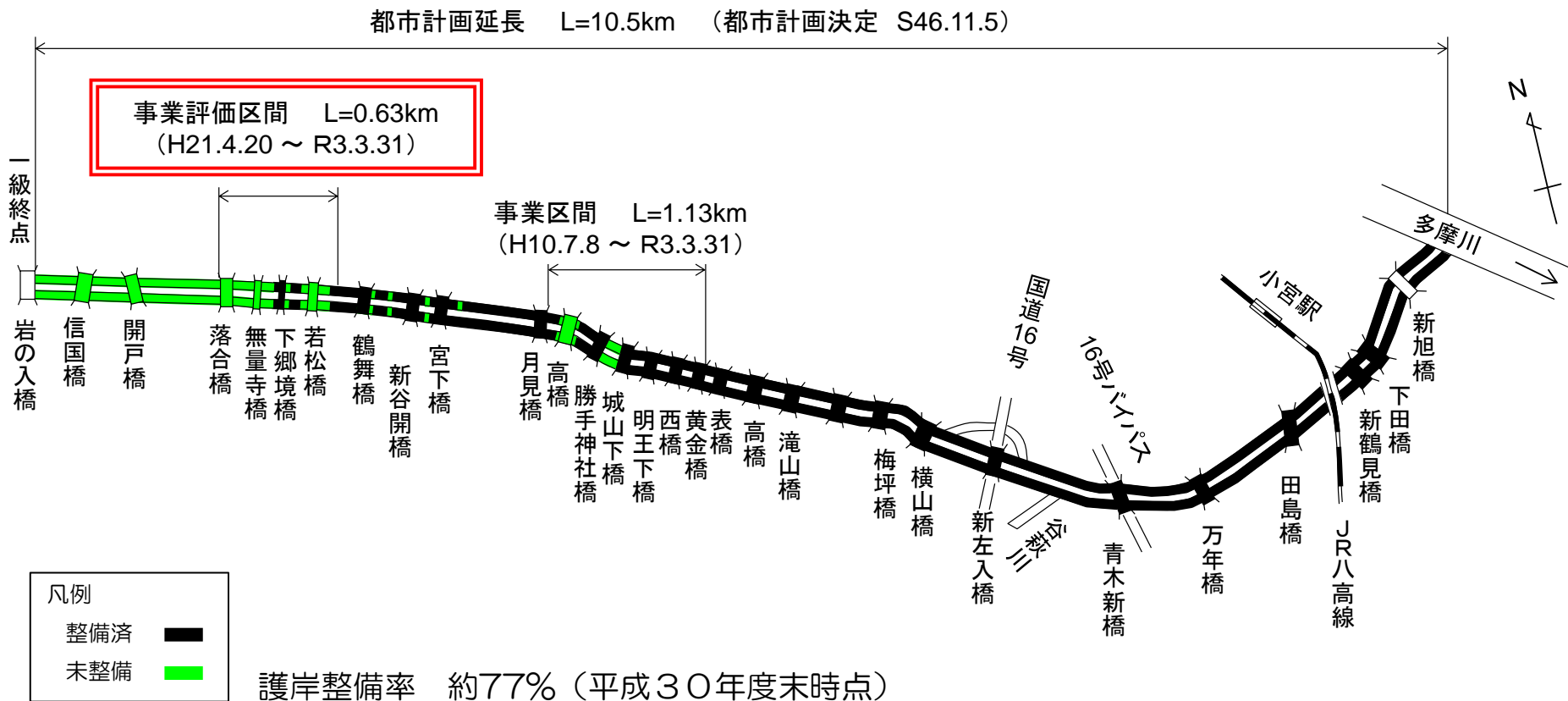


しもだ
下田橋上流側

1. 事業概要

1時間あたり50ミリの降雨に対応する護岸整備を行い、洪水による水害の危険から都民の生命と暮らしを守るとともに、うるおいある水辺空間の創出を図っている。

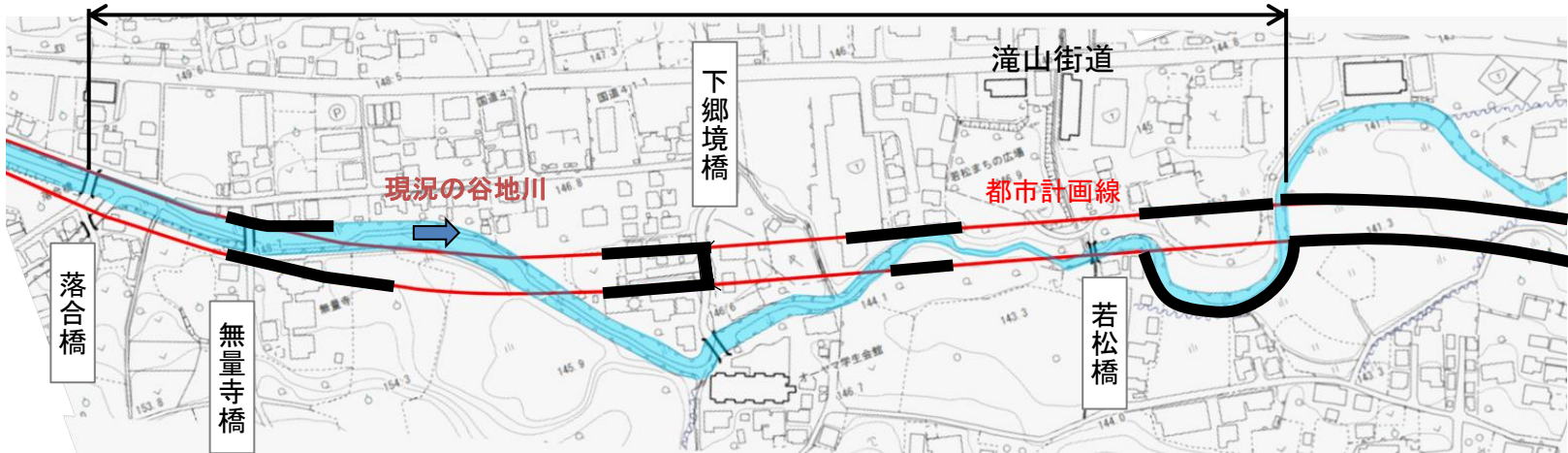
整備状況図



1. 事業概要

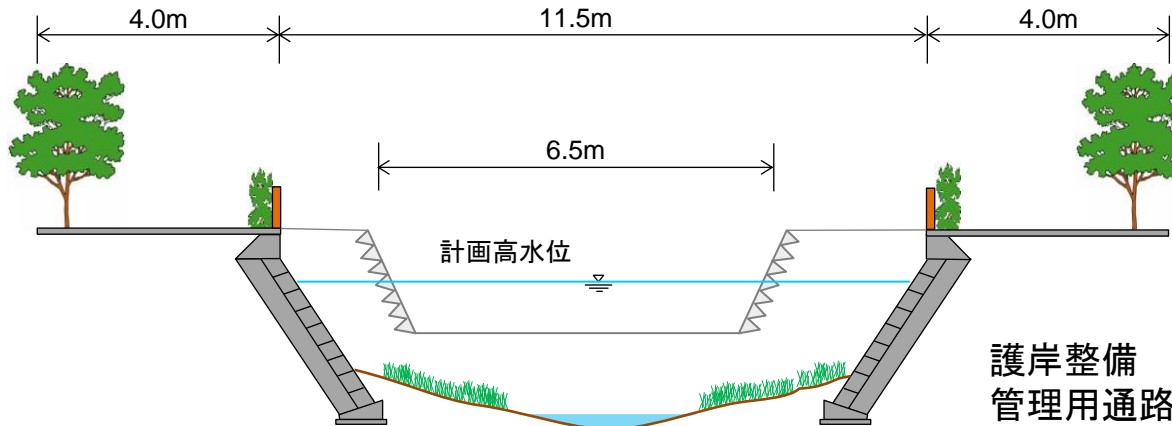
平面図

事業評価区間 630m



凡例
整備済

標準断面図



護岸整備 川幅 11.5m
管理用通路整備 両岸 4.0m

1. 事業概要

整備イメージ



蛇行を繰り返し、瀬や淵が連続している
河川に近づける空間がない



河道拡幅による治水能力の向上



緩傾斜護岸の整備により親水性のある水辺を形成

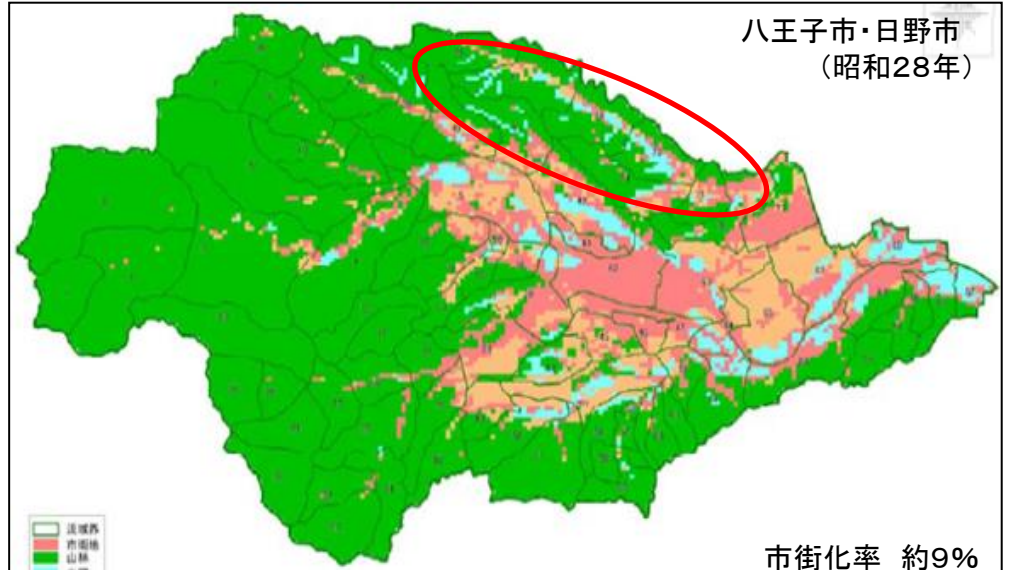
1. 事業概要

経緯

年度	計画等
昭和46年	都市計画決定（当初）
平成18年	河川整備計画 策定
平成21年	事業認可（当初） 平成21年度～平成27年度
平成27年	事業認可（延伸） 平成21年度～令和2年度
令和2年	事業認可 変更予定

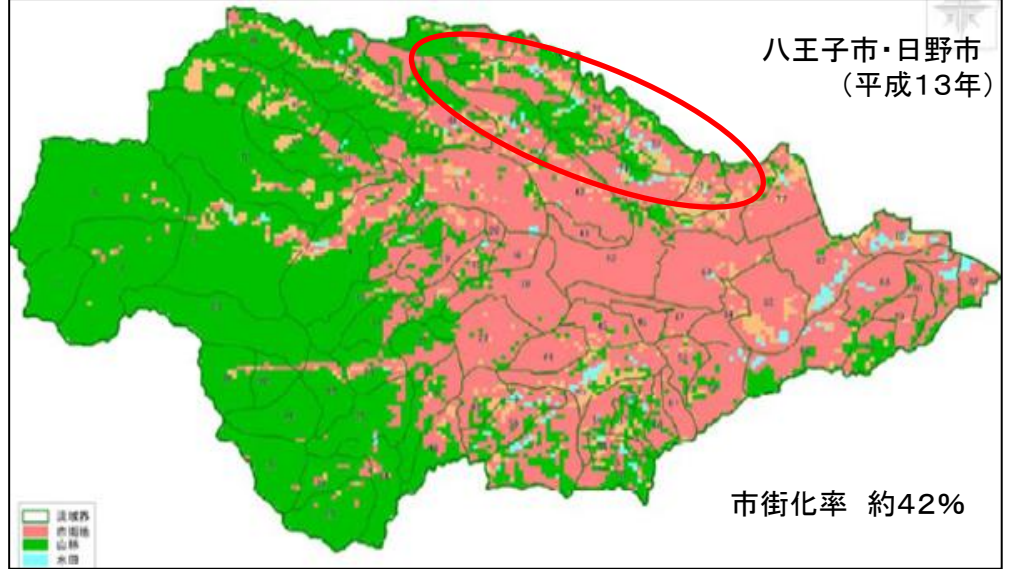
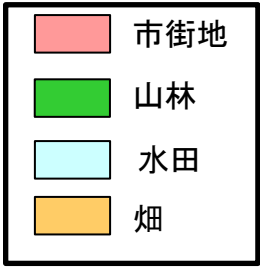
2. 社会経済情勢等の変化

土地利用状況の変化



谷地川流域

谷地川流域をはじめ、八王子市・日野市では、宅地開発等による市街化が進行している。



2. 社会経済情勢等の変化

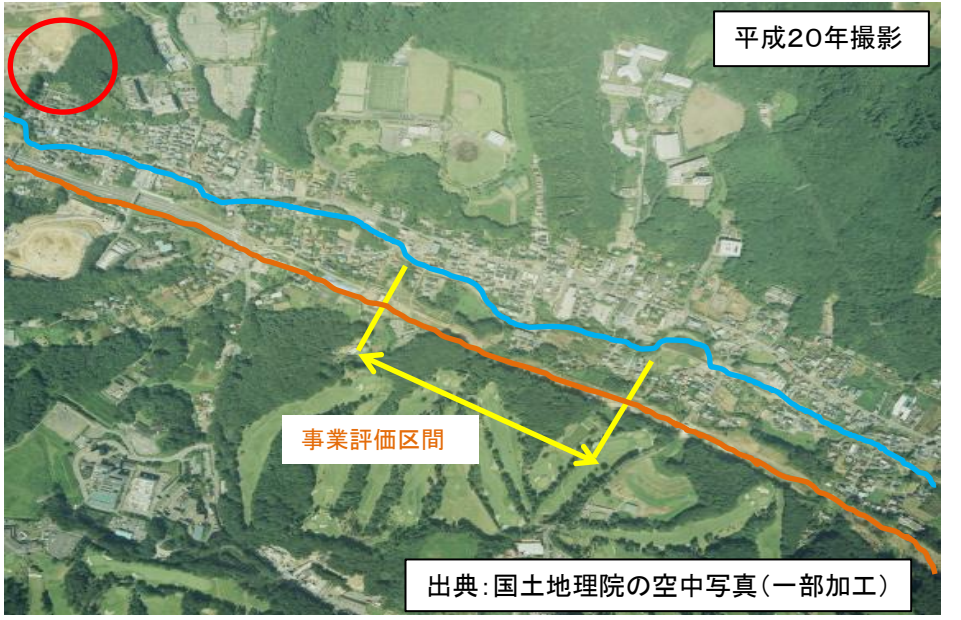
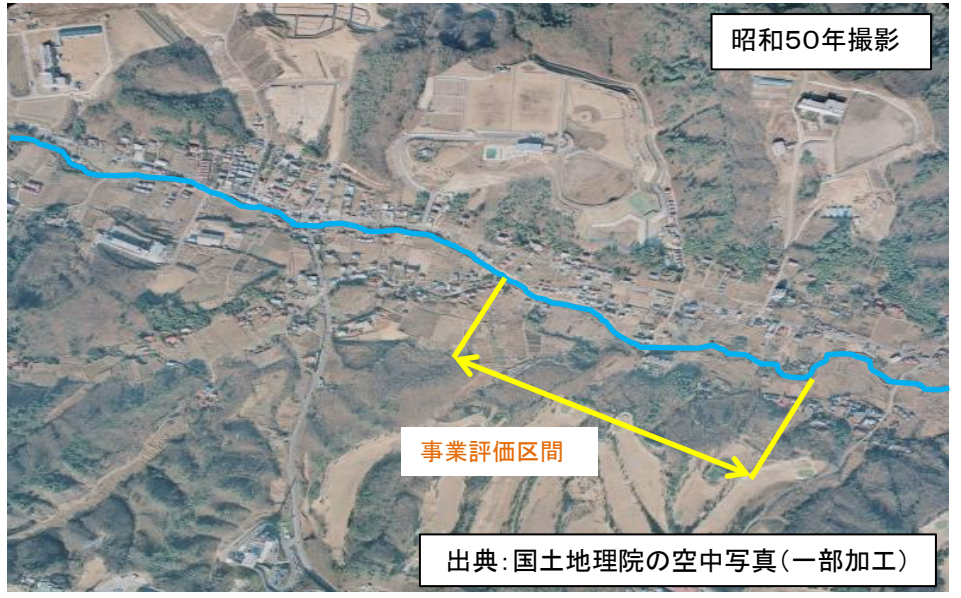
土地利用状況の変化



- 事業評価区間周辺においても、市街化が進行している。
- 新滝山街道の全線開通後、物流拠点や企業の研究所が新たに進出している。

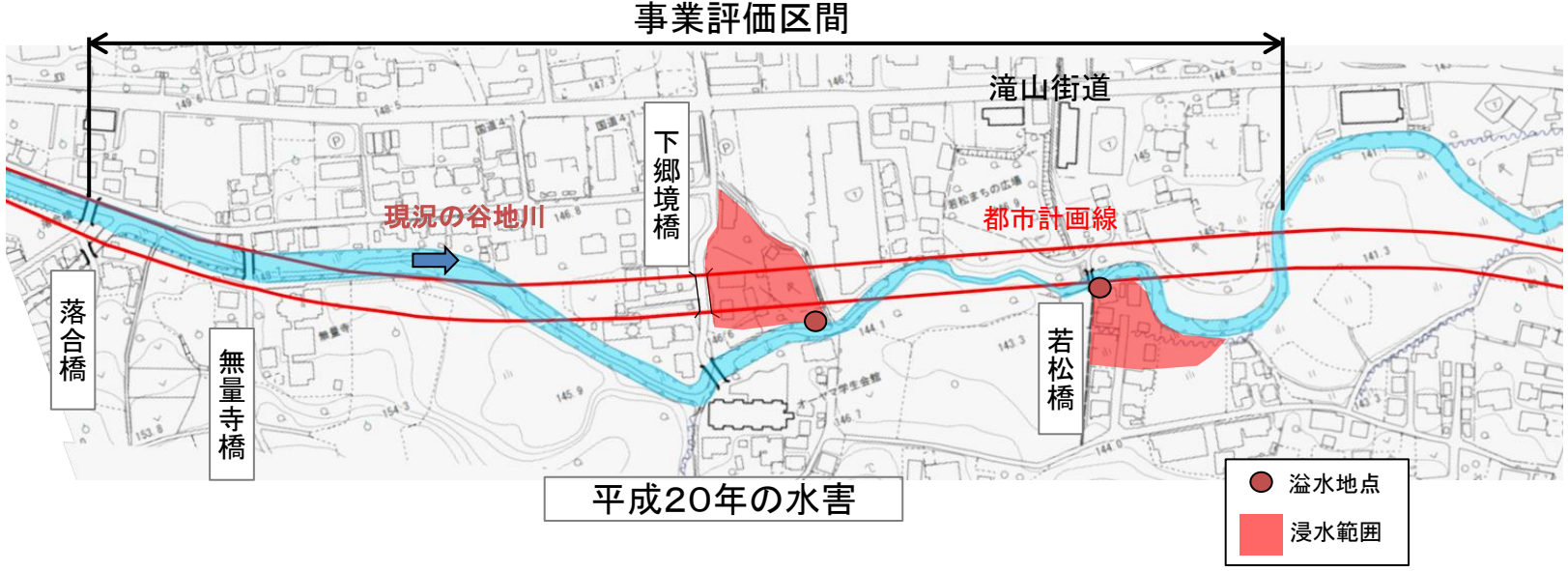
【凡例】

- 新滝山街道
- 物流拠点・研究所



2. 社会経済情勢等の変化

過去の水害実績



年度	浸水回数	浸水面積	床下浸水	床上浸水	被害額
H1~H10	4回	0.61ha	27戸	5戸	185,790千円
H11	1回	0.11ha	26戸	6戸	69,109千円
H14	1回	0.05ha	4戸	0戸	5,240千円
H20	1回	0.57ha	11戸	1戸	15,255千円
H25	1回	0.02ha	1戸	0戸	1,438千円
H28	1回	0.19ha	6戸	1戸	49,148千円



下郷境橋付近(平成20年の水害)

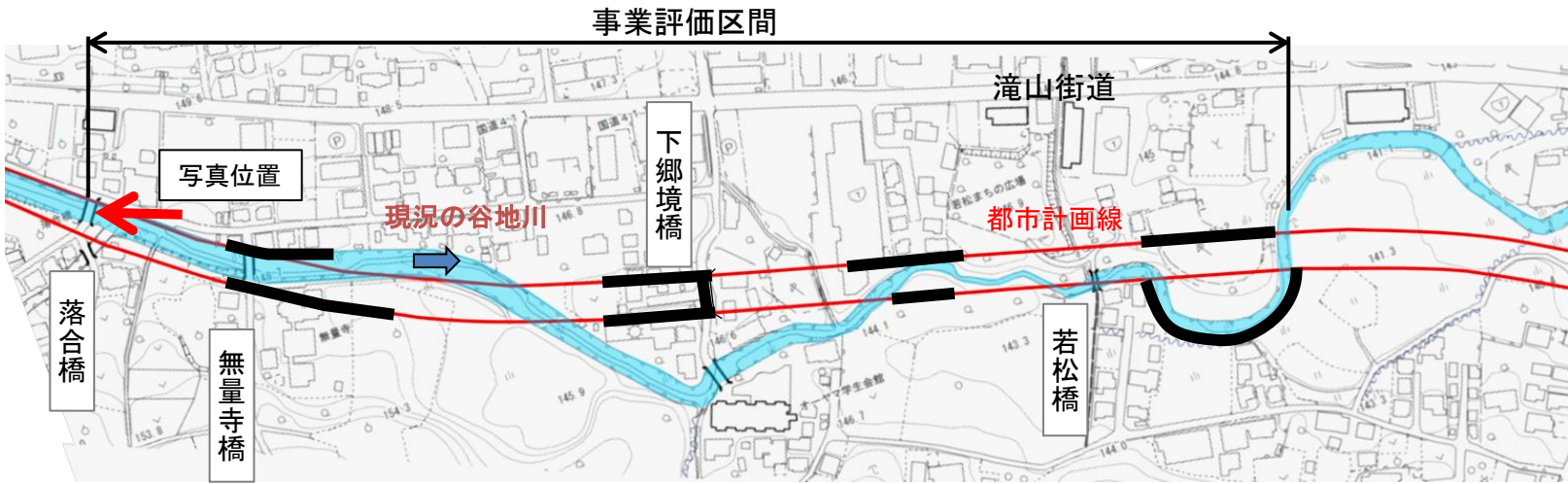


若松橋付近(平成20年の水害)

2. 社会経済情勢等の変化

災害発生危険性

流下能力が計画流量に満たない区間があり、溢水による水害が発生する危険性がある。また、周辺では市街化が進行しており、水害発生時の浸水被害の拡大が懸念される。



落合橋上流付近(平成17年)



3. 事業の投資効果

定量的効果【費用対効果分析】

【河川改修事業に関する総便益（B）】

河川改修事業に係る便益は、洪水氾濫区域における家屋、農作物、公共施設等に想定される被害に対して、年平均被害軽減額を「治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月国土交通省河川局」に基づき計上

- 現在価値化総便益額（B）
約165.1億円の便益が発生

被害軽減効果①	約160.8億円
残存価値②	約4.3億円
総便益(①+②)	約165.1億円

【河川改修事業に関する総費用（C）】

河川改修事業に係る工事費、用地補償費及び維持管理費を計上

- 現在価値化総費用額（C）
約80.9億円の費用が発生

工事費①	約38.6億円
用地補償費②	約34.2億円
維持管理費③	約8.1億円
総費用(①+②+③)	約80.9億円

【費用便益比（B/C）】

$$B/C = \frac{\text{便益の現在価値化の合計} + \text{残存価値}}{\text{建設費の現在価値化の合計} + \text{維持管理費の現在価値化の合計}} = 2.0$$

3. 事業の投資効果

定性的効果 【内水被害軽減】

河川改修により、市の雨水排水管の接続が可能となるため、河川沿いの浸水被害だけでなく、流域内の内水被害軽減に寄与する。

定性的効果 【親水性の向上】

市街化が進行する地域における河川の役割は、安全な街づくりと沿川の風景に調和した水辺の提供であるが、未整備区間では住宅が河道に近接し、植生が繁茂しており、人が安全に河川に近づけない状況にある。

➡ 河川改修に合わせ、親水空間等を整備することにより、市街化地域の治水安全度が向上するとともに、川の存在感が向上。



下水（雨水）排水管（整備後）



整備前（無量寺橋下流）



親水護岸整備（無量寺橋下流）

3. 事業の投資効果

定性的効果 【市民の健康増進】

河川管理用通路を遊歩道として利用できるように整備することで、地域住民の散策やウォーキングのコースとして親しまれ、市民の健康増進に寄与する。

【河川管理用通路の整備】



整備前（谷地川 下郷境橋下流）



整備後（谷地川 明王下橋下流）

4. 事業の進捗状況

事業費の執行状況

平成30年度末時点

	用地費	工事費	合計
全体事業費	1,042百万円	1,192百万円	2,234百万円
執行済額	749百万円	711百万円	1,460百万円
執行率	72%	60%	65%

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B / A)
8,582 m ²	7,762 m ²	90%

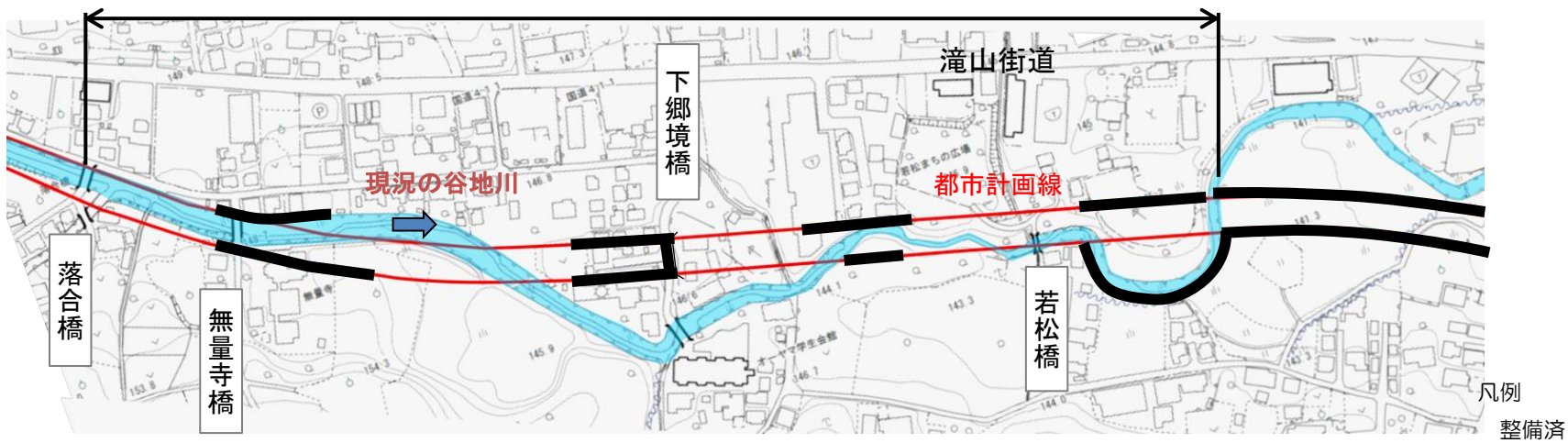
4. 事業の進捗状況

事業の進捗状況等

- 工事の進捗率
 - 平成22年度着手
 - 平成30年度末までの整備率約50%
 - (全体延長630mのうち311m整備済み)

- 残事業
 - ・ 用地取得 820㎡
 - ・ 護岸整備 319m
 - ・ 橋梁架け替え 3橋

事業評価区間 630m



4. 事業の進捗状況

一定期間を要した背景等

- 現場周辺は狭隘な道路に囲まれており、工事用搬入路や工事に伴う迂回路を確保するための地元調整や借地交渉に時間を要する案件があった。
- 河川工事に影響のある支障物件（水道管や電柱等）の移設の調整に時間を要する案件があった。
- 工事契約が不調となったため、工事の進捗に遅延が生じた案件があった。



5. 事業の進捗の見込み

今後の事業の進捗見込み

- 用地取得率は9割を超えており、概ね順調に進んでいる。
- 搬入路等の工事に必要な敷地に関しては、検討調整済みであるため
今後は護岸整備が順調に進む見通しである。



護岸整備予定箇所（落合橋下流部）

6. コスト縮減等

事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ・現状では事業手法、施設規模の見直しの可能性はない。
ただし、水辺環境や生態系などへの影響には留意して整備していく。

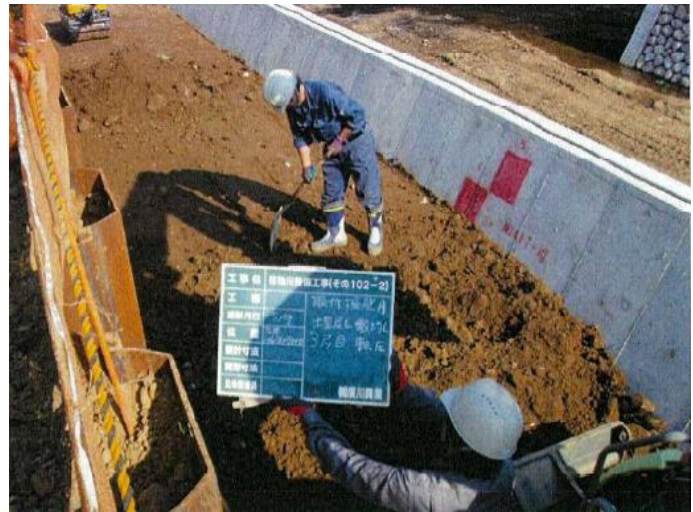
コスト縮減の取組

これまでも、コストの縮減に努めながら事業を実施してきたが、今後も以下の取組により処分に係る費用を縮減する等、コスト縮減に努める。

- ・既設構造物を取壊後、カゴマット中詰材として再利用
- ・発生土を仮置き後、埋戻土に再利用



中詰材への再利用



現場発生土の再利用
(埋戻し状況)

7. 対応方針案

- 新滝山街道が平成25年3月に全線開通し、市街化が促進されることで雨水の流出量も増え、本事業の重要性は非常に高い。
- 本事業を継続し、洪水による水害の危険から都民の生命と暮らしを守るとともに、うるおいある水辺の創出を図っていく。



谷地川では、治水・環境の両面を向上するため、引続き事業を推進することが必要である。

継 続